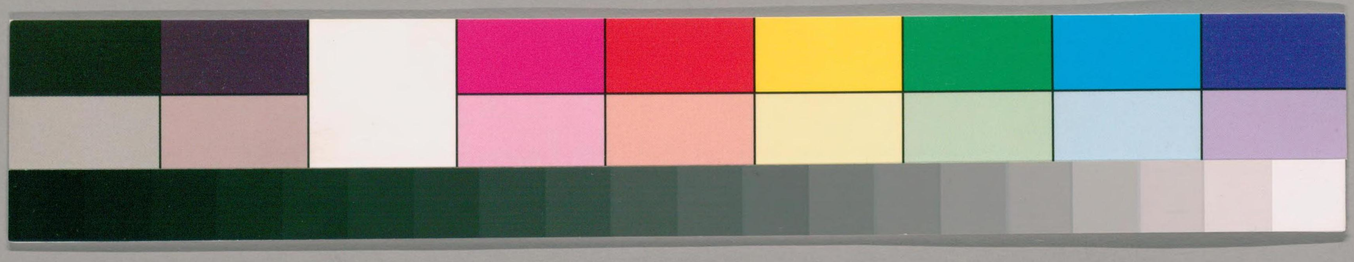
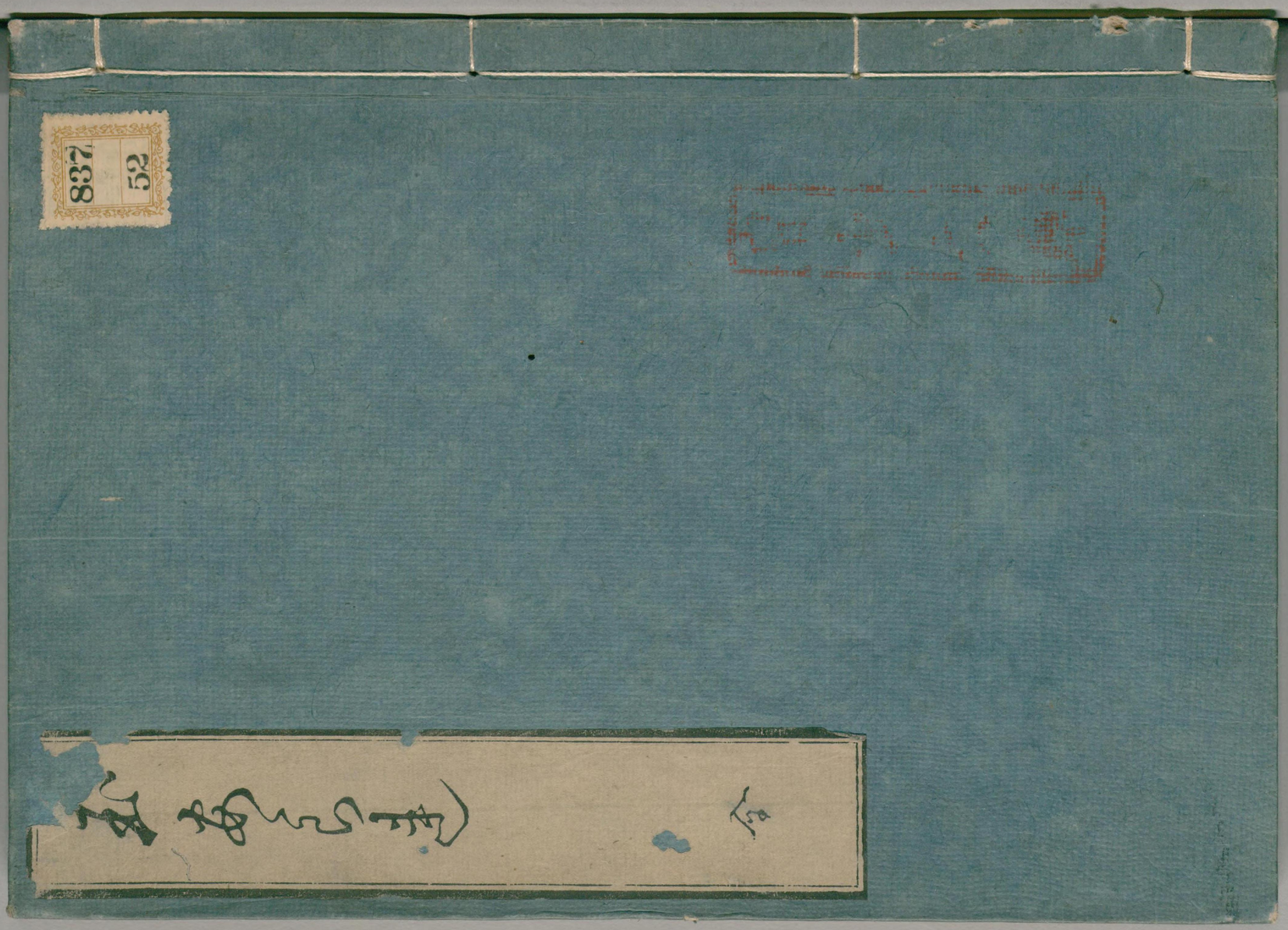



837
52

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52

837-52

天保校正

本居大人著

玉あられ

全

壽美能家藏板

根岸信輔氏寄贈
曽山文庫

玉霰序

世のうつり或ぬるまゝに。人のよ[illegible]
云[illegible]紫も。やうしくに[illegible]
きゝるまゝに。久米の[illegible]
調は古へ同じこさ物[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]調も心[illegible]
ざ[illegible]かれるれど。歌詞文調。此集[illegible]。
此物語の[illegible]そのごとくもと。異[illegible]
[illegible]。一ッ松一ッ調も一ッ[illegible]。さ[illegible]
[illegible]。[illegible]

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52

ガラス使用

ここは難波津浅香山。父母のやうにその
海山のうるくあへず。深くあはむとこそうら
むまなびのまどくしさをも思ひいろうで。昔
乃ゆくまゝに。作ことなきことを書へ侍。

玉あられ

まねびのまどに書あてる

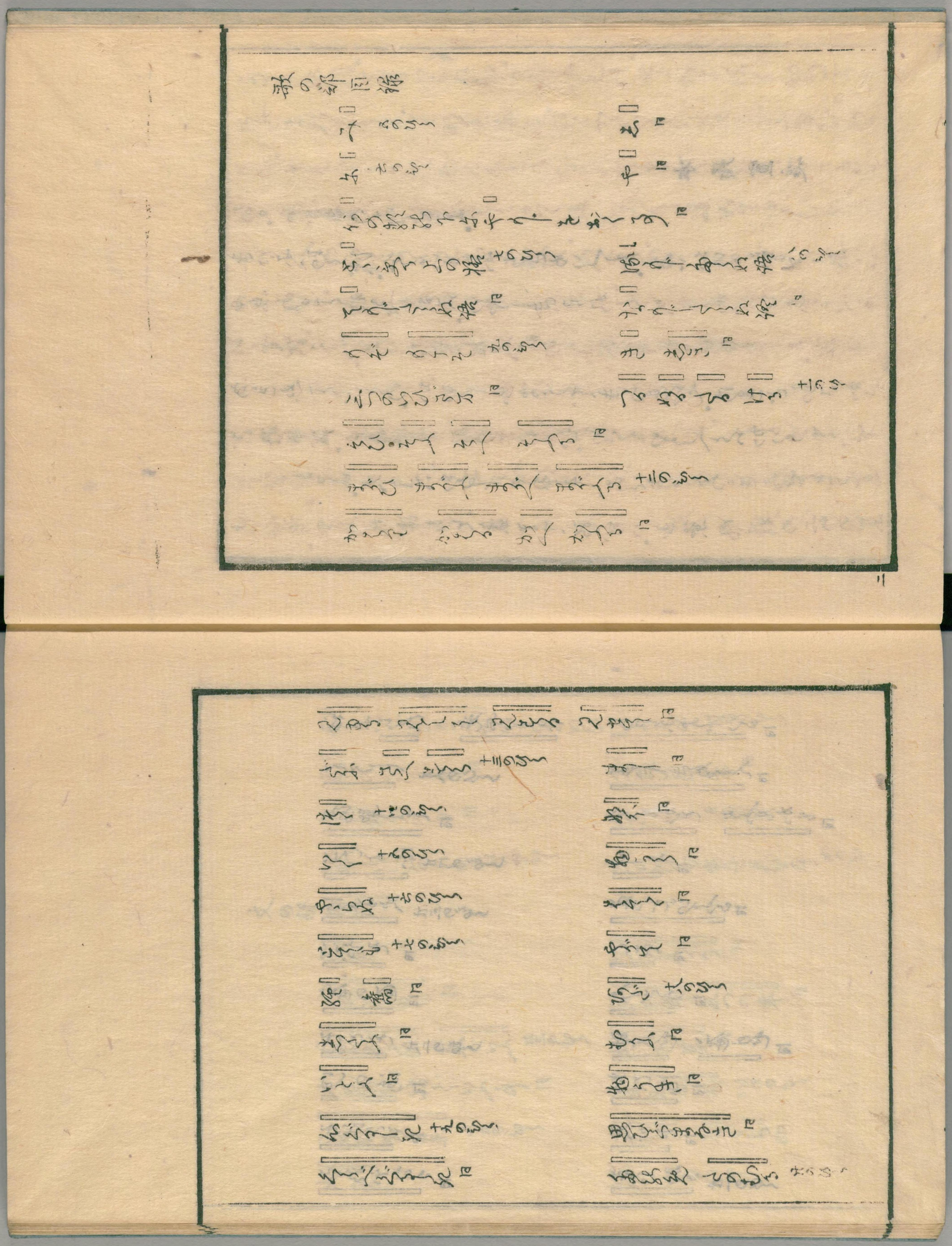
おど殿のつさだや 作えぬ物を

有がる紀津氏の見ぐるは。そうる紀我乃ゆくやうにて。萬の
ものなびは其とても。やうくそ。かうりきぬるに絶わひなるに。
物はんぐるしきは。曉出てぬよのおかへのつぎたなさえりも。そいい
うなる友ぞや。分試も文をも。古へ紀をばよくも見えずて。あらち
かさ世の人乃物をるかのこ。なるづらいなるへだぞうし。そもくを
きよの人紀りの世家とは。古へ紀今や。あへりや。よくかむ
ぐべ。よ紀あしきをよくる紀まへてそ。物らむとるべきことざれ
るに。作るんもなく。みぐりにおこらぶるにならひて。物をるこうら。

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』 請求記号 837-52
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』 請求記号 837-52

ガラス使用



ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52

まぬかれある は
そもかこと は
四つの海 は
そとそ 廿二のむら
庵の面 は
こゝばそ は
ほうる史 廿三のむら
さいよう 廿四のむら
蔵聚りて は
そうし 廿五のむら
神ふちゝひ 光やいらぐ

まぐ ぬる 廿一のむら
天が下 は
おひ風 は
地のせ 庵のせ は
みざり は
こせ は
春をむかふる は
中ふ は
今もかも 久ふもかも は
美やきぬらん は
ちるふまじいる は

みといふ詞をいんものまとまいひくるゝの 廿六のむら
嵐のいひ方 は
すゞ降りの句 は
いやしげなる句 廿九のむら
夕ぬいひ方 は
ちさぐ 廿十のむら
文の詞をかふとむるの 廿のむら

文の部目錄

そまし 廿二のむら
もの ぬらし は
葉がしるひ 葉がいふ 廿三のむら
人の名を指さいふ事 は
葉前ある葉 廿五のむら
大君 は

いふとしり は
二つの年 三つの年 は
おのまし葉 は
葉ぬる者 廿四のむら
なかさ などちは
がつも 廿六のむら

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』 請求記号 837-52
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52

ガラス使用

みの詞

月清み。山高み。風をいたみ。嵐をおほみ。瀬をはやみ。など
のたぐひのみは。木の上をも多くいへど。細学ぶ歌ども中にはまぎらはしめり。
あやまりてよめる。月が清さに。山が高さに。風が寒さに。風がいたさに
瀬がはやさにといふ。瀬がはやにといふことは。をりさへ。ひとつも聞きもせぬは
同じ。近き世の人。歌みれど詞法りしらぬを見えたる人々など。或も月清
く月清きなどいふべきをも。みなかくのごとくいひて書きし。しかるべし。

は

やさしき詞のたぐひども。あさぢがはらの。をみなへし かいへ。しらき
世の歌に。道しある世。などおほくよめど。これは道しある世といふ

いふ詞は。声のし優なる故。今と詞とりいふ後におきゝえて
あやしく聞ゆるなり。誰もこゝろにはなきをもきかはかなし。すべてかや
うの詞も。古への歌をよく考へてつかふべきこと。

に

近き世の人。春に知おのどけき。秋に見えし。などおほくよむ。はあるべくもの
春に。秋に。などいふにのみ。いとあやし。又恋の歌に。人によりけき。
人に知られき。人になる詞。などいふには。誰にいひ聞えたるなり。

や

花や紅葉。又梅や柳。などいふやうなり。いひ見る詞なり。これかれと
蝶や花や。などいひて。其は蝶よ花よといふと同じ。さて。ちる
花にやなどいふもあり。然るに。鶯や紅葉など言ふは。ことなることあ

らぐ。もしくは紅葉といふことなれば。やまじかなりいざるん

何の数の事ぞ　　おくるの

なるは　いろはいづれいく　ふれしこゝろなどのわに。かりじをおくことつゆ
なり。そのあふかいづれかふれかなど。やてつぎてもおさ。又中ふ詞
をへふてくもおくん。その法ぐきてあく加りじ。今の世のもをさく張
ることは歌を。中ふ詞をへぞてあく加りじをば。張りてやりじを
おくこと多し。たとへば「いかれることあらんなり。ふれしふかなりん。など
いふべきなり。いかれることふやあらん。ふれしふやなりんなどいひ。まさ
「いく年月をかへぬる。ふれが里よりかきぬらん。などいふべきを。「いく
年月をやへぬる。ふれが里よりやきぬらんなどいふ。かやうの数の
やは皆ひがてこん。古へのこの文をとんてこれまふべし。大かさ今の世

六

おも。あるとも文をもよくよみかくと思ひなこるへも。終張りを
まゆるまいまく解し。但し「何るのぞ」ふれぞ「いかふぞ」なと。ぞりじをお
く時は。こゝ事はいかといふと解し。ぞの事ふは「いかふぞやなど。やりじ
をおくことなり。こゝは張ひのやまはなりけれ。よふ思ひて。「いかふぞよな
といふ同じ事ぞ。別ものゝ。又「いづくやいかふやなどやなどいふや
も。張ひそしあらば。ぞやのやあぬし。ちまくと思ひまふべく
あやまあることなり。

少しこゝろよの格

とべくとゝいふ詞のよの文ウケ。定まれる格あることなり。今の人の
つぎざまいとみぐりゝ。定まれる格といふことなり。「花さきぬ」とゝ
いひて。「咲ぬるとゝいはば。「歌ひ」ばつとゝいひて。「咲つゝとゝいはん

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』 請求記号 837-52

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』 請求記号 837-52

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』 請求記号 837-52

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』 請求記号 837-52

ガラス使用

いやとは。こゝのことかなること。おかりかりけるを。くゐらへば人のかう我くまし人といひ
おきそこ来ぬを。くゐ給めてこぬと。いかゝてくゐ給べし。おもはせてれ
きそこ来ぬ人。又人ごの鬼といふを。人を敷はせて おさそこ。さもなから
ぬことも。此人は。なるこゝのかりいふ人。まそこ。おるこのことおり。人道坂ハ人ごの鬼なるなるをおそれ
といふを。道といふ名おもはば。宮くゐんて道つべきごと。敷ことふさせて。
けそこ道このいおさをいへり。おれらなるも けとるべし。然るをふらぬ
人。おれこより おれむこと。くゐの鬼て 生のむるなどよむいさぶり。

まれかなる

まれかなる俗といふ。つくろふことなく。くまぐなりかるといふ。然るよくを世
人のまれかなるは代などよむい。曲もるものなく。こゝしく直てさ
そこと思ふまやしぶり。

まぐれる

曲らぬ直きさまを。まぐるるといふ。俗云ふことを。奇なも文に
も。古ノ一を。けらふ。ふるとぬてあるを。を世ふまぐなる時代など。
おかくよむいかふぞや。

そのうみ

そのかみとは。過し世の事をいふ語の中に。よとうまて。まゝ時と
さしていふ詞まで。くゐらへ。そのうみをしらぬ。そのうみをしらぬ。こと
しらくのそのかみをし 曲といふ。然るをよるをまとゝろ なること。
ぐ。ぬ給く昔といふことを。たがつり。

天が下

むかしは天の下とのことをいへる。天が下といふ。俗の世のことなん。

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52

ガラス使用

庵 [illegible]

[illegible]庵[illegible]を、庵の面とよみてい。面といふこと用なく。又[illegible]ふよりてい。さゝみ[illegible]げともあれり。[illegible]べし。

みざり

[illegible]も[illegible]く。用もなれ[illegible]。御とよむことを世に多し。いづ。

とがそ

とがそい。樞字をしてし。[illegible]きゝ戸のほそん。[illegible]と紫[illegible]がそなどこゝ戸[illegible]よむいいづ。[illegible]やゝ[illegible]されど。[illegible]べし。

[illegible]

簾をこまといふい。[illegible]を世[illegible]。[illegible]よむ。[illegible]さし。[illegible]書ふ。小簾とあて。[illegible]を。[illegible]

[illegible]とよみ[illegible]。[illegible]文別に字をあて。鈎簾と書ども。鈎簾といふ名い。[illegible]をや。

ほたる火

螢を。[illegible]の奇ふ。[illegible]とよむことあれし。[illegible]螢火といふ。[illegible]。[illegible]神代紀ふ。螢火光神とあるを。[illegible]のかゞやく神とよ[illegible]。[illegible]かゞやく神とてそよむべけま。

夷をむかふる

夷をむかふるといふとい。漢文にて。[illegible]園の[illegible]。[illegible]ふるとい。[illegible]人なぞと。或い雲冥。或門。或い里の入口などまでゝ立出て。[illegible]。[illegible]行交るとい。[illegible]

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52

ガラス使用

まなぶべきわざの人も。おろそかに思ひすごしてつかふは。いかにぞや。垂迹を
きゝよければ。儒道家。垂迹きこえては。といふべきのことば。垂迹きこえん
は。垂迹が本地ならぬとはいふべき。垂迹が本地といふことにいふべき
本地を。垂迹がきこゆるまじきといひて佛也でも。さらにいふべし。

神にならひ　光やはらげ　塵にまじはる

神祇の方に。誓（チカヒ）とよみ。又光やはらげて塵（チリ）にまじはるなどよむにて
いふは。やゝ始めしよりのことにて。そのうへ後世どもも。さへぐ神に誓を
いふてふ。はしにあるは。其は佛のさとしにて。佛を本地として。神をば其の
垂迹とするは。神をも。ひとしく佛のことにして。儒の人もいみじく
ることを知るをも。何のうたまくもなく。おしなべてよむこと
なれるなり。又ひさかたやすらぐちりにまじはるなどいひても。くるしと

垂迹といふことばは。和光同塵。といへるよりおこりて。ひろまりて
まゝ。神の御うへにいふよりなれて。いふことを。から佛。そのことを
もかたへる語なる故に。例の神と佛をして。儒のよみそめたるなるを
るべし。古はかゝらず。やまとだましひなる人は。いみじくさとるべし。

みといふ詞をこそ。西のさとにいひなれしが

み吉野。〈玉編〉〈美豆〉など。さへ。みそことといふ事なくは。かんなを
ことにてそのひろくべきてことなるも。こえたるときへらひらけがたし。みと
のことばは。こゝろにてふるやうなるが。ゆゑあるかずのりかたくていふこえ
いふは。かなもかなし。こえある。ことよりかなとくるにいひて。いはゞ
よりてなくて。へよめるにて。別なるを乎。然るにそ世にはえおほかり。
みといふやうは。これなるを。いふらひつるは。こゝろなり。

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』 請求記号 837-52

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』 請求記号 837-52

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52

ガラス使用

父の部

父の部

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』 請求記号 837-52

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52

ガラス使用

てのといひがといふことは。あまよりて。かなまなれて。あまくて。とひのみ
かねつらひ。ふてさ。絅なるを。と無人その味をもつらざるから。かゝるにこそ
こゝ取るてもなる取也。

おのも某

くまさころ新人。文の中に。こゞろ新名と。おのも某。こゝ某といふ名をかく
てこゝろし。これおのもとかくか。又は名をかくか。何も名も何も一つなる
べきを。おのもといひて。又名をいふ。古へ不例なれてとて。それ漢文にも
不佞某とかくなどを思ひて。いひそえたるえがてと取るべし。さて法いでは
いまむ。漢文は
まれは。こゞろ新てをとば。吾子僕などいひて。己といふてはなれたを。唐国の文には。己
ともおのれともいへり。これ漢文とのたゞひ見え。又己もおのれといへど。名をいふもつゆの
こゝろなり。これ漢書も同じてこそ。然るとゝろの無ふ。私おもむ私志など
のこゝいひて。こゞろ名をいふてはなれば。古とゝろこのかゝりなり。

人の名をさしていふこと

人のかたへ。そなた新名（今いひ世実名名字なり）を法してしていひやるは。それ（ナメシ）きこ
とえ。然るに今の新世。奇人どつなど新世にそれ。ひとつゝ名をかく
を。雅なりとんぬ。よりしていたくやまふ人の詳人さへ。其名は
さして。某（ソレノ）大人などと書やるは。いとなるまじ見てこそ。そもく名はかりと
其人をほめたふとこそつきたる物にて。上（ヲ）まつりし代には。うやまひ
てもこそ名をよぶこと。若なりし事よりて。古学者とも取どは。今も
人の名をよぶことを。取えしとは思はざえまど。中古よりこなる。
もべく人の名も。のろもしかの格新ごとく事取りて。これをよぶことは。
なめしともなる。上下おしなべての定まりなしなれば。これよまつり
し代のぢやう事いひぞこさてこそ。

某新家者

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52

ガラス使用

かうぞ。ちた日記に。ある人あづかりにとせめとせることなるも。貫
そこなり。ちたの国なるまでなりし所どをいへり。大きこまとうらうし
んはべし。あづかりと称く田舎をいへる例なし。あれは縣（アガタ）のれとまた
あしきなれ。古事記傳成務天皇の清巻にいへるも。

ひづか　むさし

ふう新世の人。江戸にゆくことを。或は。ひづまにまかりたる。或は。むさし
新国にくだり給ふなどかくはこそ。江戸といふ名を出を。俗なる
やうに思ひてなる名まで。地名なれば。なてふてうはいふもむ。まかせしく
江戸をさしていふことには。さぞ江戸とかくこそよ給しけれ。こののさま
によりて。ひろしいひてもよ名ぬれ。ひづまにいふべけれど。そまも猶
あしかにこれをさしてよ名とまれ。さいそんたもろし。又武蔵国にて

三十七

とかくは雑にまゐし。ふうは二大の下に二つなれ大江戸なるに。もちをも
おきて。国の名をもいふべきことにならしぞ。あるべき昔新人も。来よ
のがるを。正法にとはいはざりしをや。

なそぶ

ふうの人新文字。武野になそぶ。難波になそぶなどかくなそぶは。漢文
の遊字ようらうまる誤ん。あへゆくをなそぶといふことなし。又人のぞ
しになりて知まるまゐてこと。某大人の門（カド）になそぶなどかくは。遊（アソ）ぶを
ひらかもいふ。門（カド）も漢（カラ）ん。さべく国とがこのまし出しても。文字
のままにいひてはなれかくをとなれぬるの多きぞうし。

道行嫌を

そこゆきぶりとは。道にてゆきなひふまもるをいふ。称るに此ぞ務乃

人のこゝきて、あきとゝんまいが、旅路の日記（コキ）のことを、給いつるなり。いとし
れしがことなり。

川をさまし

ふたて西といひ、川は渡るといふぞ。たちまり給ふ。給ふるを今のく、
旅路の日記なぞに、某川をこして給ひどかくは、いみし見えうこゝと時
の人は、かち渡りなるでは、こゝるといはれども、むかしは海川は、橋り
まれ船にまきたりまれ、きべくこゝるとてそいひつき。又山は古西と
いへども、そもしも古をといはれば、こ西とこゝをとは、自然のあらぬ先に
つゝ、おもして川にこゝをといふことなり。今世に、川でしまて、人を渡す
をいふにはかりて、川なぞしまて
こゝをといふべきよりはなり。

賀さ

今の人、賀給ふのこゝ出来、某の七十賀してよめる、などかくは、
賀してといふこと、漢文之、同じさ字を給ひつゝ、七十の賀によめると
いふぞ。雅（ニヤビコ）云は、名ける。皇國にては、賀といふ。そのいはひことをする
ざ給いふ名目ふて、うぶゝぬ詞なる事に、賀をとする賀をしてといふ
ふことに、賀さ賀して、といふはよ給しきを、六十を賀さ、七十を
賀してなどいへば、賀、字をもてきて漢文之、よくまれまへて出べし。

おと嫁さ

おとぶ見は、古えそしおとほぎといへるが轉じたる事て、いはふことなり。
給るを、人の命にて給、おと嫁さ長し、こと嫁きいくつなどいふは、
くみがへり。それは漢文に、人をいはふことをも壽（ジユス）といひ、又も壽壽命なり
ど、命給ことをも壽といふ。まぞまつる給ふ。壽命のことをお

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』 請求記号 837-52

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』 請求記号 837-52

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52
ガラス使用

とかりかし。又新古と集は後鳥羽みこと新清自撰のだや
うなるに。是も此詞の多きは。もとのわひなどにはたりてはもやく
かゝるさゞひの詞づかひなどを。くちしらばなりて。さゞささくの集
どもの例。新まちにかゝもしたりとぞ。しかる。ほとて又ちさくしのあり
の集はなどとゝるに。奇ごとに此詞あると。ヒト集のうちにをさく
なきとがなるは。此詞なれば。あらはれとおくかさ集をおきたるが
集多くなるは。おれやけにまり。又けらでも。世人へ出て清
覧ぜさせしなどなるべし。古さ集をは大かた此事だけ絶ぞりん
こんさる。今新世のなりひに絶ずまだ。古へをあたりん人は。これは
へあるべきおとにはなむ。

詠ふ　詠ける

詠ふは。なにふる人につきていふ詞。詠ける。更る人につきていふ
とばえ。詠ふは。信ちに。ふまる。ふしに。ふきる。すどいふにあたり。
詠ける。ぬくふいたとく拝領する。すどいふにあたり。くまらんば君乃
居る物を詠ふといふは。なにふる君の字につきていふ語なるなりし
詠ふは。又居の君より物を詠ける。といふは。君より詠ふ字をいふに
はあらじ。更る居の方につきていふ語なるなり。詠ける。といふ
かくのごとく絶るなり。古代物には。詠ける。をば被賜と書たり。絶るを今世
人は。此差別なく。詠ふことをも。詠ける。と。通しいふは。ものがことゝ。

詠ふ　詠ける

なりけるといふべきを。なふさるといふは。中昔よりこれらの音便
なり。正しき詞にはあらじ。絶るを今世人は。かへりてこれを（ミヤヒ）絶る
ことゝいふは。ものがことゝ。又これは音便の詞なれば。詠ける。とはなりきる

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』 請求記号 837-52

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』 請求記号 837-52

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』 請求記号 837-52

ガラス使用

が

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52

ガラス使用

國の網づかひ爲るべし。

ゆ志ふ

ゆ志ふも。よりてこと同じきまゝて。すしよと切りて。おこしていふと
きは。このゆ志ふとも。ちるゆ志ふをいふべし。網のかしらにさゞれ。ゆ志ふ
ゆ志ふ。とは。いふべきにあらず。古文にいふは。繪のかしらまでは。かきとしいひて。故字をも出
す。又漢文に。自のかしらにある故字は。若こうかゝ
ゆ志ふと訓に本書す。これからこれが。ゆ志ふといふてあり。うやうに二文をもて。繪の
かしらに。さゞれ。ゆ志ふといふまゝにいふまゝにさゞれ。若し漢文をよむとも。かく網のつかひ
ざまをもしらず。ゆ志ふのことゝ
ゆ志ふにはあらざるなり。

のこ

のことは。こゞこそ物をするぞうりにて。わかの物わかれ事のまゝらざるをいふ網なるを。近きてこの人乃文まは。是をこゝのうで。こゞ
語の勢ひに。のみといひとゞらむることを。漢文にはかしらへるむが

ぞうとえ。大きさ四五國の語には。さまうに。のこといひて。とゞらむる物をも
物をもてこそ。古きこの爲にはこゞ一枚のこ。いゞもとりのこ。なとゝもとゞめさる
なまどこれらは。一枚に限り。一人にかぎりて。二つ物をもとゞめさるを。
さゞ語の勢ひにて。深くさるにはあらねど。別すべし。

かつ

かつを。はるすをし物がら。彼るをもし。或は學すもあるに。彼事
もまじいるやうのことにつかふ網之。然るをとさゝ君の人は。此網
を法ふまゞ見所に。つかふと多し。それもと漢文の且字にし
なるへるむがてこそ。抑漢文なる且字は。かつと訓べきこと。すこと訓
べきこと。そのうへと訓べきとなりて。古見訓ぶるは。君の所あとく訓
分ちるなど。を世にはいふ者にあらず。いづまをも。皆かつとよむとしそれは

なるひて。皇國の文まも。まことといふべきに。そのうへといふ事さと
て後なるべきを。うへといふこと。をとさてうるし。ぬひてもいふある
やうなれども。そもしも又うれを世の港文訓ヨミにあるまゝ耳
まことにあるも。まべて世のなるひまて。ゆしぬことも。耳なれぬるも
だ。さて此ゆるねぞかし。

いとを

いとをしし。いとあつし。などいふいとは。つひやうなある詞也。ことへ
だいとをしいとかなし。なるといふはよ後しし。ぬるを同じ詞なるべく
そもしを。いと惡る。いとかなしむ。といひてはいとゝ惡る。かなしむと
いふとは。いてくいみしく。などいふ也。他の詞どもにいふをも。この
惡るが。なしむなどに。なれまゝへて。もはまゝべし。いとといふく

とは。これは同じきぞ。つひやうは。かく異なることなり。まべて同やう
なる詞も。はらひざ女は。かうやうにあまづめあることを。思ひたるひ
てあはかくべきに。今の人は此けぢめをしらぬ。いとといひて
はいとゝ惡るを。いとをしといひて。こちなれて行さまぐあり。

哥と文との詞の差別

おほよそ同じ詞を雅言の中にも。文の詞と文の詞と。其ならぬ
ならを。今の人は此差のなくして。文の詞にして。文にいつるまゝ
に見を。文につゝみとおれし。ゐまべし。ゐまべし。見にさをるといふは
文の詞也。文にはさをるといふべし。車を小車といふは文の詞也。文にはさ
車といふべし。ちよぬまてといふは文の詞也。文にはさふけてといふ事
し。ゐぐさまづさなどいふは文の詞也。文にはゐぐといふべし。かやう

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52
ガラス使用

837
52

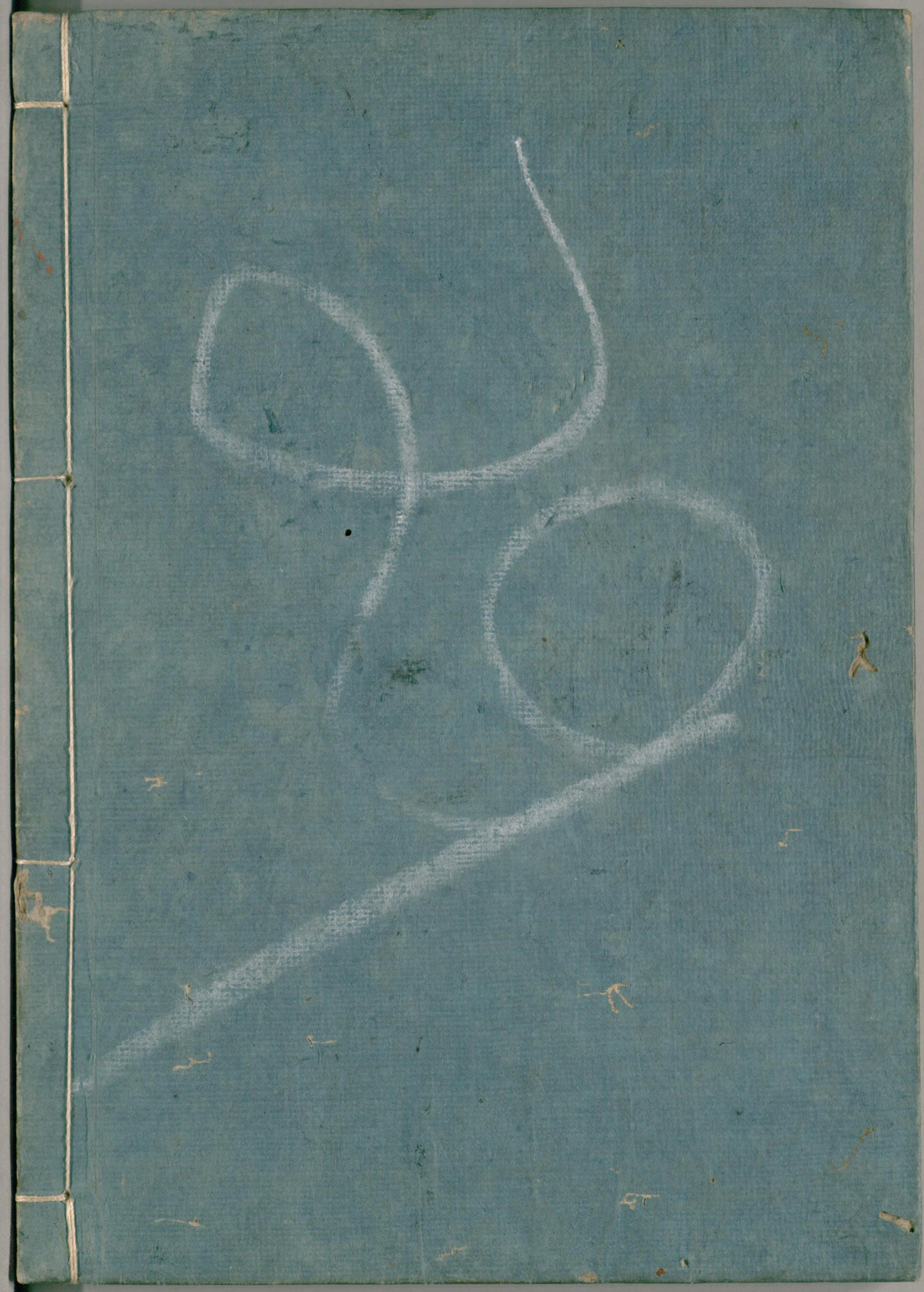
壽美能舍藏

天保十四卯年六月開版

藝州廣島
井筒屋忠八郎
大阪高麗橋三丁目
秋田屋彦助

書林

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52

ガラス使用

天保校正

本居大人著

玉あられ

全

壽美能家藏板

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52

ガラス使用　挟み込み物

天保校正

本居大人著

玉あられ

全

壽美能家藏板

国立国会図書館　タイトル『玉あられ』　請求記号 837-52

ガラス使用　挟み込み物